

科学技術外交のあり方に関する有識者懇談会（第4回会合）  
（開催概要）

平成27年3月10日  
国際科学協力室

1月28日、宇都大臣政務官の出席を得て、「科学技術外交のあり方に関する有識者懇談会」（座長：白石隆・政策研究大学院大学長）の第4回会合を開催したところ、概要以下のとおり（出席者一覧：別紙「資料1」）。

## 1 開会挨拶

冒頭、宇都政務官から、これまでの審議を踏まえ、科学技術外交を今後一層強化していくための具体的施策や体制づくりについて議論いただきたい旨発言した。

## 2 議事

外務省から、これまでの会合における議論を踏まえた科学技術外交の強化に向けた具体的施策例について説明が行われ（別紙「資料3-1」、「資料3-2」を配布）、これらを踏まえて各委員及び出席者による意見交換が行われた。意見交換の中では、主として以下の点について議論が行われた。（主な発言要旨：別紙）

- （1）外交政策全体の中での科学技術外交の意義
- （2）近年の科学技術の潮流も踏まえた科学技術外交の戦略的課題
- （3）国内外におけるネットワーク形成のあり方や人材育成の重要性
- （4）科学技術外交の具体的な実施のあり方

## 3 報告書の作成について

（1）次回（最終回）会合で本懇談会としての報告書をまとめることを念頭に、座長から、報告書に盛り込むべき主な論点として、次の4点がある旨発言した。

- （ア）科学技術外交の意義とは何か。
- （イ）科学技術外交の戦略的課題は何か。特に、オープンでリベラルな、また平和で豊かな世界を作るのに日本はどう貢献するか。また、科学技術イノベーションのオープン化の潮流にいかに対応するか。
- （ウ）科学技術外交の基盤整備や人材育成に関し、ネットワークのハブとなる人材をいかに特定し、組織的なサポート体制を築くか。
- （エ）その上で、現実に機能する具体的方策は何か。客観的に「売れる」ものは何かを把握する必要がある。

（2）また、座長から、次回会合に向け報告書の原案作成にあたるドラフティンググループを設けることを提案し、メンバーに金子委員、角南委員及び細谷委員の3名を指名し、了承された。

（了）